

76
横濱開港見聞誌

上

特別
凡 4
4230
4

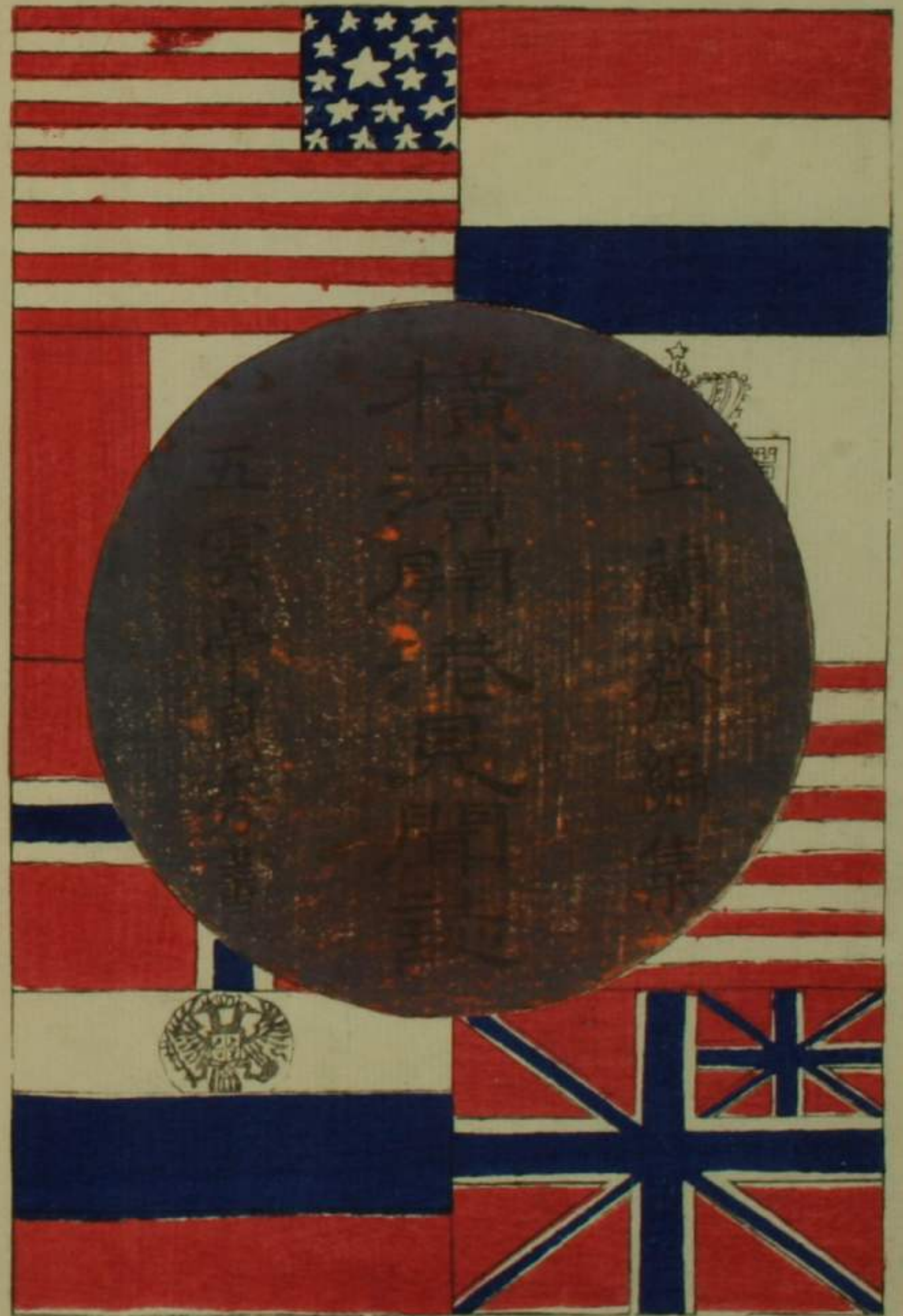


門 凡 4
 號 4230
 卷 4



冊中に出る圖ハ凡異人館内朝夕の支分て食事の製又ハ菓子其の圖ハ
 以て或ハ横濱山持渡る銅板又石板油繪の寫來る故以て是を出し萬國の風俗
 も自ら是は出る多し初圖は出た所の連發行歩之舞ハ王版に見る如く
 横濱異人館集り之の支分て其十人集り七人此日鉄炮と持出共
 少きものハ三度見る正有て此繪は合せ見る時ハ異るの多く大勢小勢の
 其繪圖の方を以て此初出たもの最も足の揃方其外能調練の有様
 女性衣紋の寫其製一又異人館みえり牛屋あり是ハ渡來の國人第一
 の常食其其屋の内ハ牛をむぎくの圖寫真を出し銅板繪み見る如く
 西洋諸州ハ牛羊の干肉の市有を見る是亦食支の物み付て圖を写て此内
 小出其外數多あること圖の寫をとりて次編み譲りて微細み出たもの

玉蘭齋主誌



昭和三十年
 一月十八日
 平家



昔河四



亞墨利加人
謝練行列之舞
其第一之圖

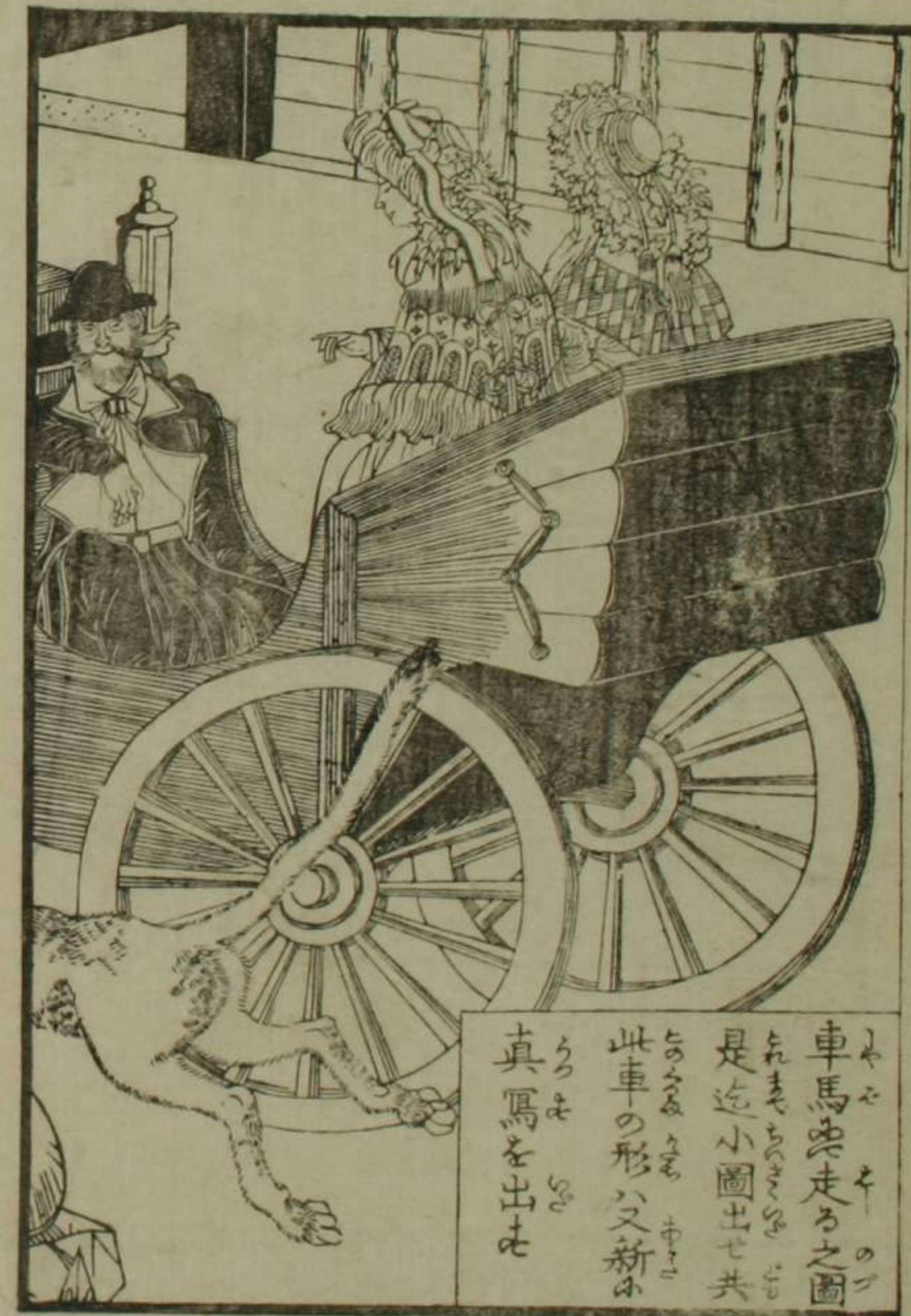
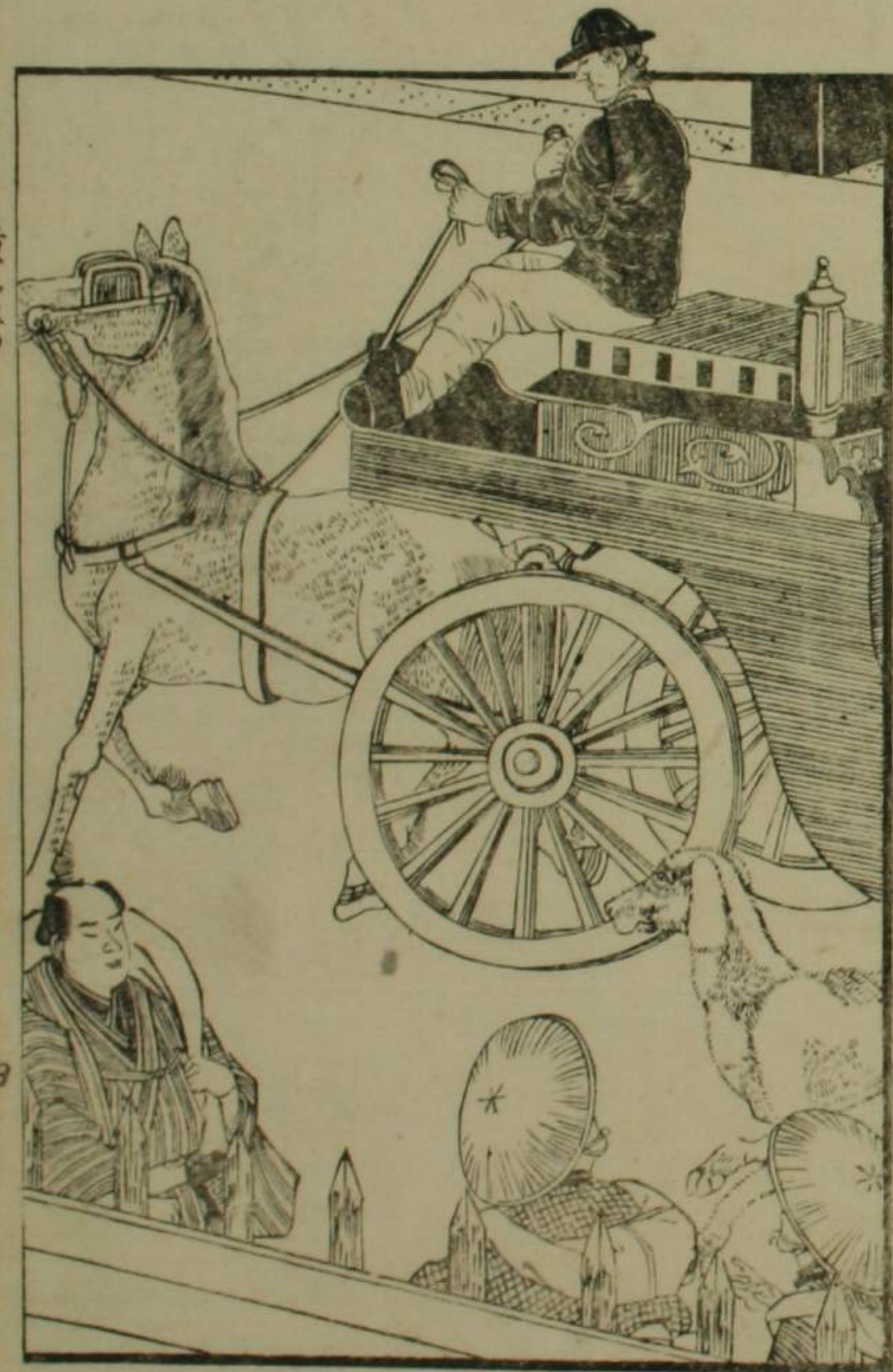
昔河四



黄賣四



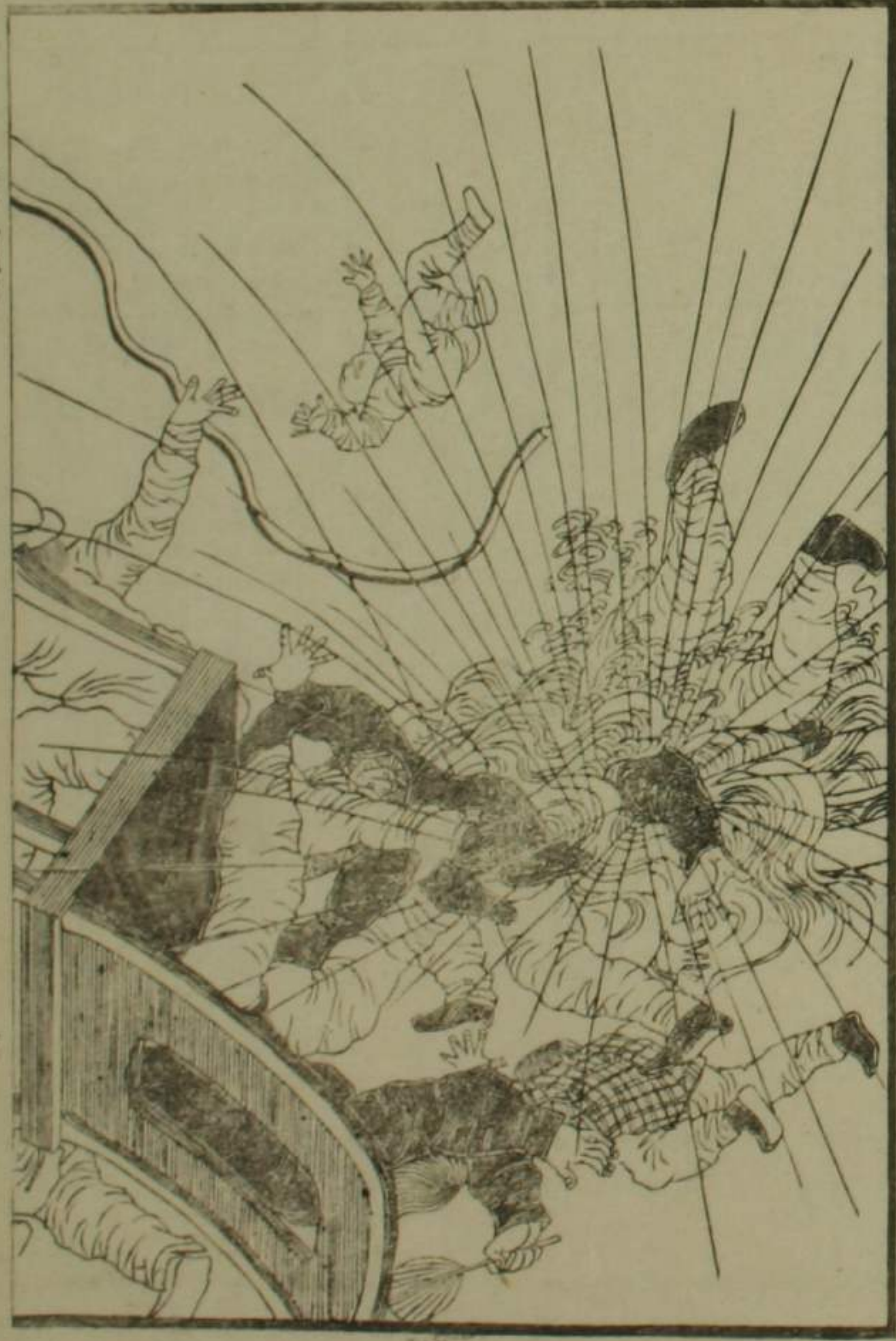
オ波ロ



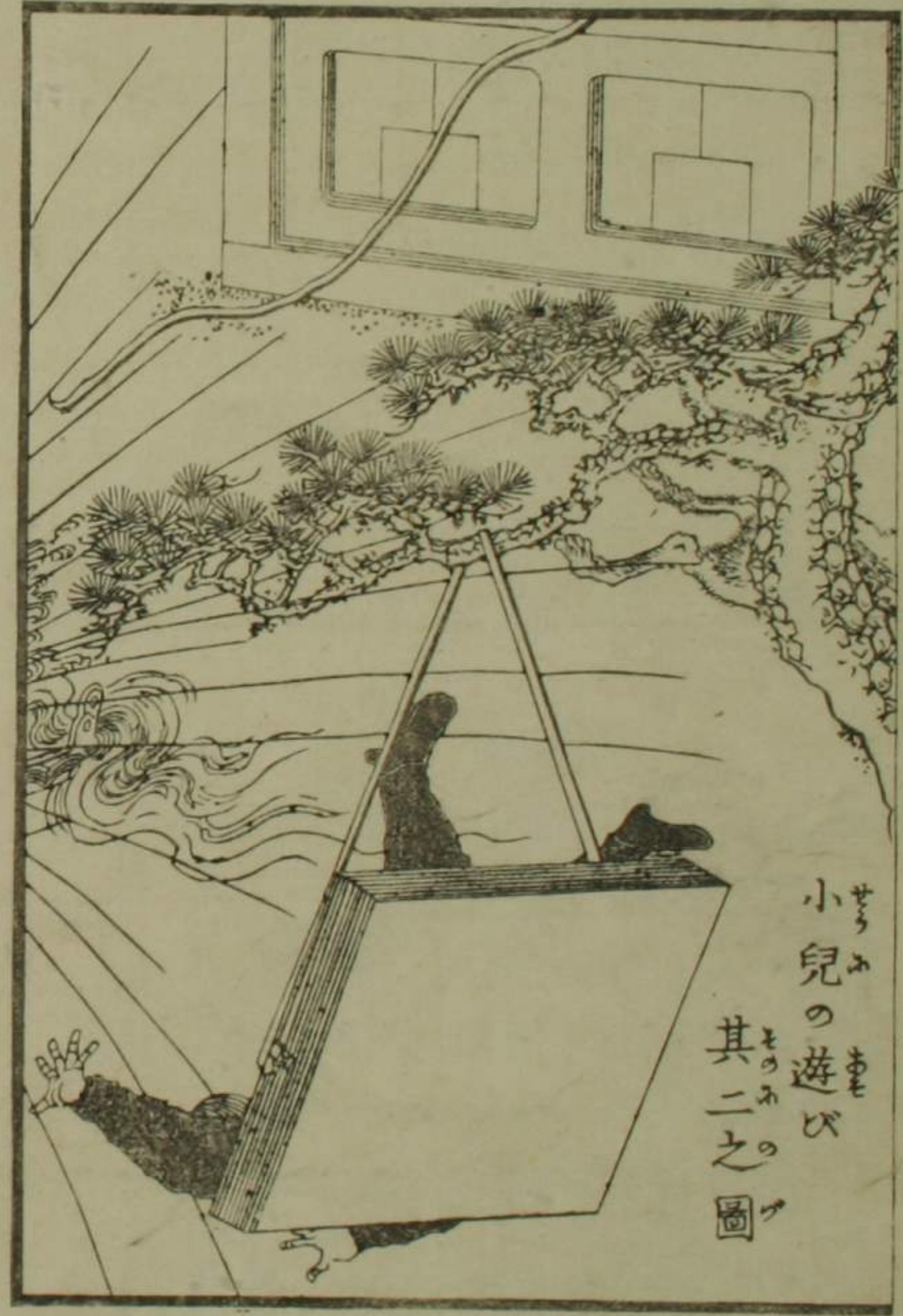
此車之形又新
 是迄小圖出共
 此車の形又新
 是迄小圖出共
 真馬を出せ

オツロ





番賣四



小兒の遊び
其二之圖

村流四

五二



異商館の妻小兒を
集めて文字を讀む之圖

木村澤四郎

三二



黄濱四

同
英吉利人



横濱渡来異人真寫之圖
魚白西亞人

横濱四

七二



同
亞里利加人
ありりかじん



同
阿蘭陀人
あらんたじん

打子
打子
打子
打子

打子
打子



同
波爾杜瓦人

黄
頁
日



同
佛蘭西人

新
下
才
子
二
二

七
二
二



横濱を
 見るの
 異人の
 西洋諸
 國と
 亞墨利
 加人
 同様に
 ある
 有る
 其内
 三人を
 寫し
 出さ
 外國を
 畧す

黄寅曰

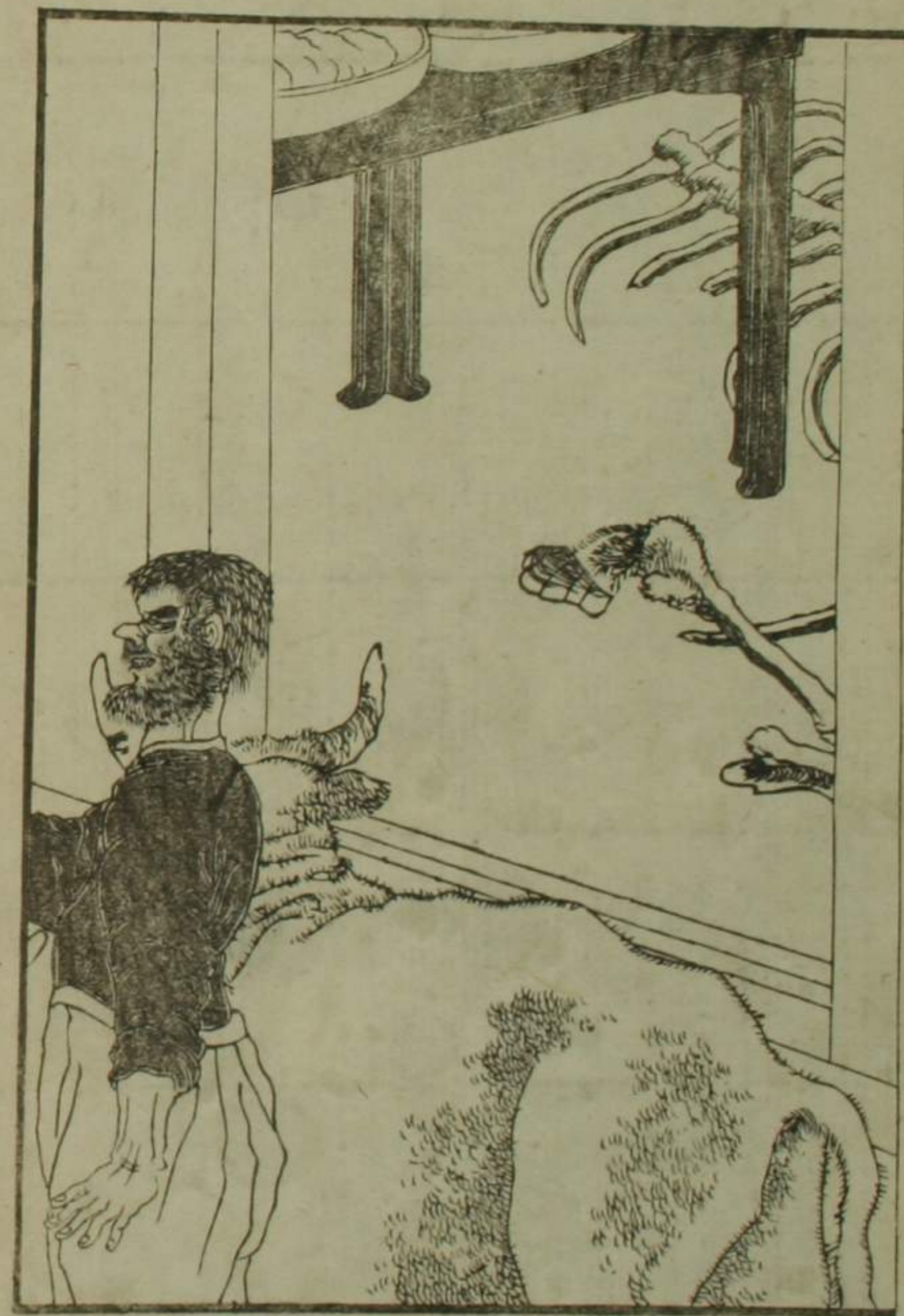


横濱

十三

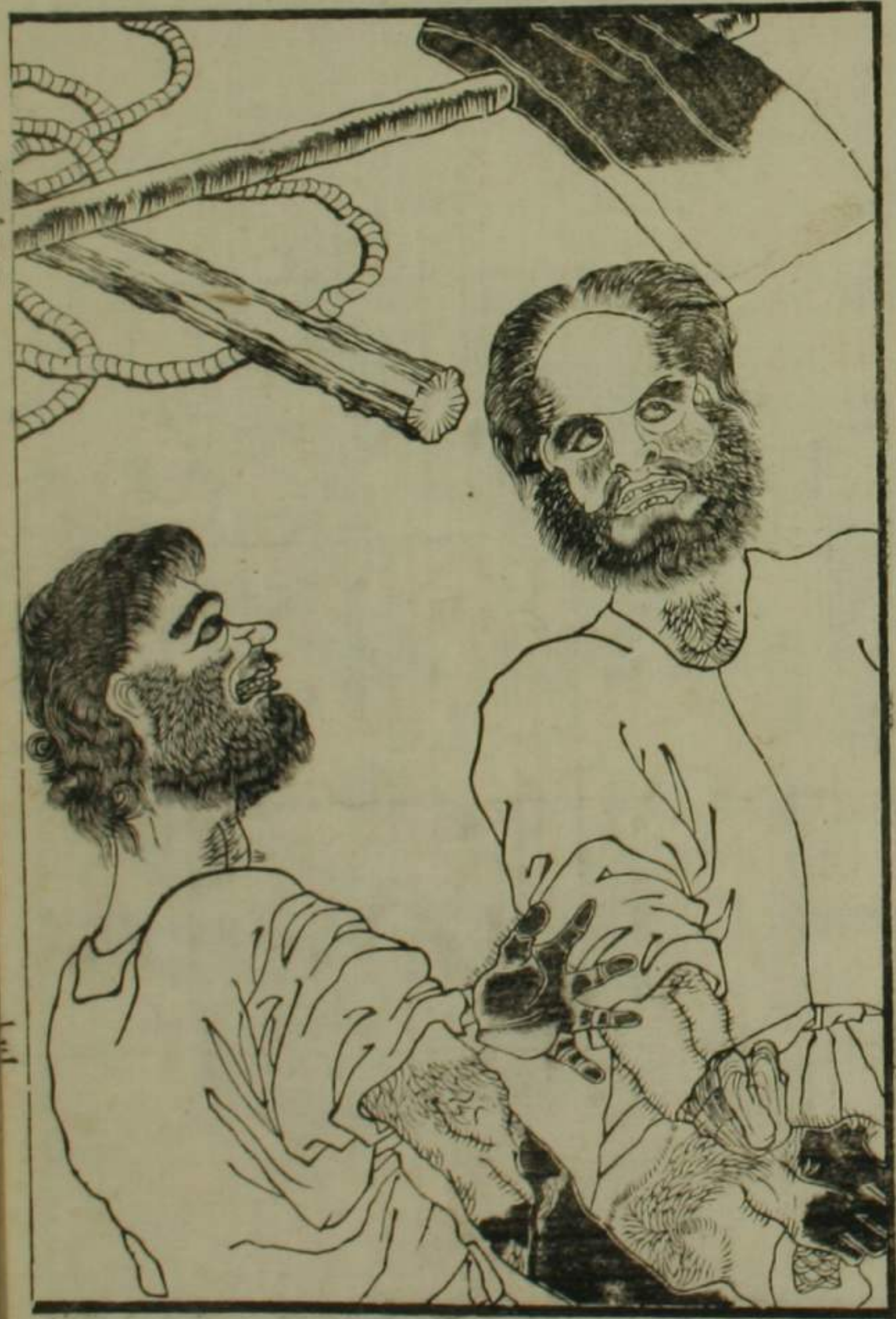


黄貫四



木浦四

十一



牛屋の内を是をもて人の
 ありりくじ多き人
 亞墨利加人の中にも極邊鄙の
 所に住む其寫之圖

オサロ



黄賓四



牛乳をきき其肉を食用仕と油を取り
又乳を取り之是をボールと名附異人
日用の食ふ是を作るいさるいさる

横濱



横四

五



横四

五

亞比利如女人是也黑人女との横濱
 中買物をふ出大風呂敷み多分
 つまみ入る額の所みまひ
 ありみ下げて通人又其月大多
 西瓜を頭の上み置て道を行み
 あまもちるこはし是



何ぞも重きもの頭の上み
 置う又そのた持行の圖

此巻中の初圖み出たる連行のありさる横濱異人休日よの時とて
 右のち多びある所見る先その足揃鉄炮の仕方きよく足揃ひく
 沓音も一声のどみ初きて美更あり次の圖み走馬車と出是此
 編み出るといども大なる細みあはる今巻中み出たる其作方と
 写しとて一日異人館内み見る小児の遊びを写し初め十三才とわたりた
 二才余の小児を脊負ひ細き繩を張りて真中を歩み金盞のやうある
 大キ廿二尺七八寸廻りある水有その繩を渡らんとて時み小童多く集り
 来り一人ハ門内家のやうらふる椅子とありて其上み登り小きた團
 扇をもちて右のたらのの上を渡るまねヨラーヨラーチヤとひやく両手と上
 て是をみる又一人ハ松の木みわたり紐をうけ四のどく臺板をつり一本
 下りの紐やぐらぐらくとくを尻の加減みく留り両手みあつくと左右の
 紐をつりみ心よげある舞をみて大音をあげ細渡りを見てヨラーチヤ
 とわたり見物の子供とて成もほりて中て臺のうみ團扇を持たるが

面白き余りおぼろしく何となく繩渡りのつる中を走らうつら
きまぐたれや脊負ひたる小兒を手をさし其身ハ下ある水をちみ落入
たる是を見て臺の上の團扇をさす廻りく在り胆をけり臺幾らみ
とぐりくさび落さう松の木ぶらさうたるは是もさうさうたるなら
ちちみ前の方へまうてんとらりと落見物み有合せたる小兒ハ三人四人のあは
声みまみあひかんといへてまき然るても怪我も多し其声何国の小兒もあ
るまき其遊びのさまも多分いらさう女子あは母の側をて書をくた物の
本をりもまき最もいらさういさういさうなと虫一匹さうとも殺せ工と殺せお
まの父み見せく其物をたぐゆあり異人町南うり通りみ牛屋との入り
吾国や山とらの見世み同ト牛羊をささる賣る家あり今ハ二軒と
ありて表町中も横濱みく牛さういとの入然るても其渡来の異商
本国やこれ是在のりく平日の定食とく小兒の時よりもその食みく
生長するゆふ是をきくま真以て常食とするめい麥を用ゆるパン

とらふ麦の粉へ王子をいれ移りまきとポートルみくあひく取用也牛羊
あんど客ある物見遊樂の時みくは食食まされバ其國中み牛作る者
われバ又ポートルを製する者は是をまき其国の田業まき今横濱み未り
牛をまきを見るふ大牛を引いれあは足み綱をくみ付らうをくちちちの
さうしまみ引あび時み牛の前の方み又一人廻りて牛の前足を谷を打落
せ牛ハ其終え入るまき能かんねまき初めより此如くみくころを
とも猛勢あまきのみみきり景色もまき其まきた入るのみまき少くハ動
さうら派よりと直様皮を切ゆきまきそれくみ肉を分ち此家み客も迎
るゆふあひく風味あひく食と思ふ人ハ此家み行て牛さう一有日と
まきく小鍋み入まき是を煮て出まき諸方の異人館より是を買み
未る時其臺の上み初らび肉をその價さのみ切らうみく持未る
らつこみ入まきいさまきまき山とら見世み似さう又牛の肉も油と
ちちりまき派ポートルとの入最も毒消第一の妙薬みく西洋諸

国又亞墨利加と云く大海を渡り種々の国へ交易し渡るや又小の
ホートルを持行バその地より暑さ極つたあり寒きと雪の宛中
小住国あり悪気深きあり真水を得て食すと云ふ此ホートルを用
ゆる時其諸氣ふ當ると云ふ是れをいふをあげ何を煮ても其中へ此
ホートルを用ゆる油をあげりさうたるあつたるを又りどの
粉を入り是れをいふホートルと云ふ揚下官又ハヤと云ふ黒人の常食
用也南京の常食パンを用ひざる国也横濱也南京人食事ハ米を用
也著るのくさりと云ふは此の事なり和漢相同ト又此牛の皮を滑
して文書の紙や紙の仕立皮箱の製して打ぬきの模様を美事付て
金箔を置く萬國分圖の本もどふある渡来の異人その面鉢を写
すよ阿蘭陀魯西亞佛蘭察ハ凡飲よりたる人あり鼻高く眼深く
王多くいあさたる鬚髪ハ茶色あり亦黒色あり白毛をまへん
あり娘とも見ゆる若き女性の黒色三分白色七分の頭あり身の長

何國も定めぬ然れども西洋の志々身高き方多し亞墨利加人
ハ面色その眼中鼻の形吾國に近き人多く鬚髪ハ茶色又ハ真の黒
色あり女性のく巻の工は鯨骨の串を通し下ハ大み切よくあり
美巾をいり是れを製し頭の中笠を冠りとの下付るものも
むをいり此笠ハ外へ行き其道まら用ゆる工も館内みは在るとは是
を用ゆる工も一只布の美多し用ゆる工も館内みは在るとは是
牛を逆しまつり揚てひさる其国の風と見へ羊ふてもおさハ魚子皆
その料理の仕方ありと右の工も妙多し是を見ゆる人さつくと云ふ
然もその手際よく仕分を考工ハ妙多し是を見ゆる人さつくと云ふ
容解る目もわらぬと云ふと晰のちみ銅ケを穿るうらを作
中より何さ此牛羊の此項ハ諸方みくが鍋ケを穿るうらを作
て殺まぬ見るふらんて其鳴声とあをまを殺す所ハ是
み上を行も肩のあをの秤みくら等分だらうと云ふ

黄頁目

ありひたり。又外の人口出。これ余り此牛屋のこむる言れぬ。日本と
 又此所も。我出生のこむる。御国が牛の油ハ。多分。其乳の
 等を。須入。其葉。江戸。ある。と云。外の人口を。その。これ。白牛
 酪の。こむる。是ハ。牛を。その。白牛。白おま。喰せ。其乳を
 其。茶種。ゆかり。物あり。無。下。賤。我等。仕。品。め。い。あ。ら
 ぬ。工。ホ。ト。ル。同。論。あ。い。る。ま。の。と。此。如。く。ぐ。や。く。い。る。く。多。く。人。が
 其。も。あ。る。人。異。人。の。さ。く。異。形。多。く。犬。を。十。匹。余。り。け。い。る。さ。ら。下
 り。中。の。つ。べ。く。平。の。袋。の。こ。下。り。大口。あ。た。く。く。息。も。た。黒
 色の。椰子。の。如。き。あ。り。又。チ。の。こ。た。あ。り。何。れ。も。赤。き。口。を。あ。た。黒。と
 かり。走。り。来。る。見。て。皆。色。を。失。い。て。あ。げ。て。み。た。ハ。の。多。く。と。連
 り。来。る。此。さ。い。き。牛。屋。の。入。口。明。る。く。あ。り。此。時。運。ぶ。一。人。も。食。い
 付。は。ら。人。も。あ。り。て。一。人。二。人。ひ。き。ま。し。横。丁。へ。入。ら。ん。と。あ。り。立。り。た
 行。て。久。の。さ。ら。見。る。み。皆。人。々。懐。中。の。紙。入。を。あ。り。て。さ。ら。あ。り。

雪踏をぬき。其品。横丁。真中。の。あ。り。向。ふ。近。く。先
 の。大。多。く。此。方。を。向。き。人。来。ら。ぬ。喰。ひ。付。ん。と。有。さ。ぬ。取。り。行。こ。も
 あり。ぬ。処。み。ぬ。未。ぬ。異。人。三。人。を。来。り。て。此。鉢。を。こ。り。其。品。と。六。の
 地。で。佛。め。ん。く。其。品。を。取。り。ぬ。ち。足。か。い。何。処。へ。帰。り。た
 此。異。人。大。勢。牛。屋。の。前。を。見。物。の。め。立。た。る。ゆ。へ。大。を。け。い。ら
 知らぬ。負。み。外。道。より。此。所。未。り。て。品。物。より。あ。る。あり。け。い。ら
 製。ま。川。水。あ。り。て。能。き。し。あ。げ。小。細。工。用。ゆ。り。と。吾。国。の。鹿。の。角。の
 中。に。入。る。未。る。亞。非。利。加。国。の。男。女。ハ。使。用。め。横。濱。本。町。を。通。る。み
 大。風。呂。敷。み。何。ち。ん。多。く。包。を。あ。り。元。ふ。あ。り。前。の。方。へ。さ。ら。春
 の。如。く。み。む。み。其。頭。上。み。少。し。の。物。ハ。を。置。く。道。を。行。又。ハ。夏。の。月。夜。み

大なる西瓜など載せ又小桶の如き物も置く行い吾国の大原矢瀬
又畑より出て都中のさき大坂もも頭上の大なる物をのぞく吉良行
似る所のありとも是奥より風ありか黒人国の類あり其色黒
そら斑ありくふの如く黒く又風俗も男黒人の同なり然れども
其さ何となく女の品あるそらうたなまゆりとい其黒色の面敷ゆも
我身の後みど人の近く来るとか入時西股を内の方へちりきり
りと尻目をあまみ実鍋のそとまをいり金敷目鼻も黒き中
みぱうりとやうな見目ある誰いもあそれぬる生国の気候あり
色黒き常の思へんを此人の本國の西洋より南海中へきか
あみて暑き日中砂の中へ入置王子たちも食まふ至る昔の
「モミ」亦「ミ」亦「ミ」亦「ミ」人の焼くありむどある國といへる大廣
の原中みあり此種を生きたる其片わりの大河又海付の処
あふしと思ふから暑き大ねの國の生る者いその色黒き方多あり

人情の替ると多くむつまいくして實情深しといふまはを此横濱に来る男女
の若者も元来女夫の中み出来なれを渡来するんが女夫とあるとそ
あふ又男の方の女のみあて仲人のいふとあるてもあふといふの
あふ人なる此の命をみ見深する男異人と共日本横濱のあふ
真黒むはあを見るときんと死ぬるむりの恋病もありんし

横濱文庫四編終

